

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
長野救命医療専門学校	平成18年3月10日	我妻 忠夫	〒389-0516 長野県東御市田中66-1 (電話) 0268-64-6699				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 成田会	平成9年3月28日	成田 守夫	〒386-0012 長野県上田市中央2-13-27 (電話) 0268-23-3800				
目的	本学科は、学校教育法第124条並びに柔道整復師法に基づき、柔道整復術に必要な知識並びに技術を習得し、柔道整復師としての業務を適切に実行できる人材を育成することを目的とする。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	柔道整復師学科	平成19年文部科学省告示第20号	-			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2535	1980	0	105	0	450
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
90人	31人	6人	15人	21人			
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験の成績により、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点未満)でC以上が合格			
長期休み	■学年始め: 4月1日～5日 ■夏季: 7月28日～8月21日 ■冬季: 12月23日～1月4日 ■学年末: 3月17日～31日		卒業・進級条件	進級及び卒業の認定は、試験の成績、臨床実習の評価、出欠席状況等について評定のうえ、教員会の議を経て、校長が行う。校長は、所定の課程を修了した者に卒業証書を授与する。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 保護者との電話での連絡を密にするとともに、必要に応じ面談を行っている。一人暮らしの場合、担任による家庭訪問を行っている。		課外活動	■課外活動の種類 柔道1級審査会・昇段審査会・形講習会、日本柔道整復接骨医学会、全国柔道整復学校協会柔道大会、地域柔道大会 など ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 接骨院・整骨院、介護福祉施設、病院、その他一般企業 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成 27 年度卒業者に関する平成28年10月1日 時点の情報)		主な資格・検定等	柔道整復師国家試験受験資格			

中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成27年4月1日 在学者 39名 (平成27年4月1日 入学者を含む) 平成28年3月31日 在学者 38名 (平成28年3月31日 卒業者を含む)	■中退率 2.56%
	■中途退学の主な理由 家庭事情	
	■中退防止のための取組 教育相談(5月・3月)、三者面談(10月)	
ホームページ	URL: http://www.nagano-kyumeiiryuu.ac.jp	

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したもとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本校の教育目標を実現するために、病院・消防署・企業等と連携し、職業に必要な実践的・専門的な教育課程を編成して、授業や実習の方法の改善・工夫に努めるものとする。

医療従事者として求められる人材育成のため、本校では次の4つの視点に重点を置いている。

- ① 教育目標として「確かな専門性」と「豊かな人間性」を兼ね備えた人材を育成することを掲げ、専門教育と人間教育の統合を具体化しよう心掛けている。
- ② 校歌三心「自主・愛・至誠」を学生が目指す観点として強調している。
- ③ 学校運営の方針について「個性の開発」「開かれた学校」「地域活動への協力」「特色ある教育課程の編成」「生活指導の徹底」の視点を重視する。
- ④ 教員としての自覚と資質の向上に努める。

以上を人材育成のテーマとし、教育課程編成委員会と連携して、高度な職業教育を通じて自立した職業人育成を目指せるような教育課程を編成する。医療業界における救急医療の方向性や、新しく身に付けるべき知識やスキルを、実務に携わる専門家の意見を随時取り入れることによって、教育課程に反映し改善させていく。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
山村 怜	上田中央消防署
田中 健司	たなか整骨院
春原 秀一	上田市立第一中学校
山本 由紀子	合同会社A-line
橋詰 文彦	東御市立田中小学校
丸尾 泉	上田市立丸子北中学校
上原 一善	丸子修学館高等学校
田中 健司	上田柔道協会
我妻 忠夫	長野救命医療専門学校
瀧野 昌也	長野救命医療専門学校
永井 香奈美	長野救命医療専門学校
中村 哲也	長野救命医療専門学校

(開催日時)

平成27年度

第1回 平成27年5月14日 14:00～16:30

第2回 平成28年2月18日 開催予定

平成28年度

第1回 平成28年5月12日 14:00～16:30

第2回 平成29年2月16日 開催予定

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

柔道整復師は絶えず勉学に親しみ、数多くの臨床を経験し業務を全うしなければならない。そのために医療分野だけでなく、スポーツ分野などそれを取り巻く広い知識を習得する必要がある。企業等との連携を図ることにより、学術、技術の研鑽はもとより、豊かな感受性を養い、患者に慈愛を持って接することができるように心がける。

科目名	科目概要	連携企業等
柔道	歴史的、主義的、精神的意義において適切は施術を行うために、柔道を通し、身体取り扱い、武道的心構えを習得する。	たなか整骨院
包帯実技	損傷の程度や年齢などによって異なる基本包帯法を、実際の医療現場で多く見られる症例に重点を置き、実技を通し診断・整復・固定法を学ぶ。	たなか整骨院
柔道整復実技Ⅱ	基本包帯法を復習し、実際の医療分野やスポーツ分野で観る機会の多い外傷について、その診断・整復・固定を学ぶ。	たなか整骨院

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

- 全国柔道整復学校協会や長野県柔道整復師会等主催の各種講習会や研修会への参加。
- 他校の授業計画やシラバスの情報の収集。
- 学科内において上記研修の報告会を行うとともに授業研究の実施。
- 教員間での授業参観、並びに授業研究会

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名前	所属
田中 基継	東御消防署
柏木 久明	長野県柔道整復師会
山浦 秀司	小県医師会
勝見 藤一	御代田中学校
根橋 悦子	長野県東御清翔高等学校
宮田 暉朗	上田女子短期大学
柳澤 英夫	元東御市教育委員会
増田 勝仁	東御市社会福祉協議会
齊藤 泰博	東御市田中区
竹内 教子	上田市教育委員会
大久保 長将	長野救命医療専門学校学生

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.nagano-kyumeiiryoku.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.nagano-kyumeiiryoku.ac.jp>

授業科目等の概要

(医療専門課程柔道整復師学科)平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			科学(基礎)	・基本的な教養を学ぶことで、柔道整復師にとって臨床に必要なコミュニケーション能力を身に付ける。 ・数学的なものの考え方を身に付けることで、理論的な思考能力を高め、広い視野で物事をとらえる力を養う。	1・通	60	4	○			○		○		
○			科学(応用)	基本的なパソコンの取り扱いを学ぶことで、情報処理能力を身に付け、将来の職業に生かす。	1・通	60	4	○			○		○		
○			英語	外国人に対して適切に英語で対応出来るようにする。仕事をする際に必要な用語を英語で言えるようにする。	1・通	60	4	○			○			○	
○			体育	集団で体を動かすことによって基礎体力を維持するとともに、社会性・協調性・精神的充実感を得る。	1・通	60	2			○		○	○		
○			解剖学Ⅰ	身体の運動器(骨格系・筋系)の構造を系統的に理解し、「細胞・組織の特性」、「骨の構造,各部位の名称,関節の構造」、「筋の構造,各筋の起始・停止・作用・支配神経」について理解し説明できることを目標とする。	1・通	90	3	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ	内臓系(消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器)・内分泌系・神経系の構造について理解し説明できることを目標とする。	2・通	90	3	○			○			○	
○			生理学Ⅰ	人体の正常な働き・機能を単元別に理解する。	1・通	90	3	○			○			○	
○			生理学Ⅱ	生命現象の営みを、主として機能的な面から自然科学的に究明する。日々の生活における身体活動とこの学問が密接な繋がりを持つことを授業において理解させ、学習意欲の向上に結び付ける。	2・通	60	2	○			○			○	
○			運動学	人体は常時解剖学的正位をとっているわけではない。日常の運動・動作というものを解剖学・生理学をあてはめて一つ一つの動作にどのような事が起こっているかを理解する。	2・通	60	2	○			○			○	
○			病理学概論	疾病の5つの分類を通して疾病の原因や病態を学び、具体的な疾病名を関連付ける。	2・通	60	2	○			○			○	

○		柔道整復学各論Ⅰ	各部位での骨折損傷について、発生機序・特徴・骨片転位・症状・合併症・整復法・固定法・後療法について柔道整復師として必要な知識を学習し、理解する。	2・通	120	4	○			○		○	○
○		柔道整復学各論Ⅱ	脱臼について、発生機序や症状、骨折との鑑別を学び臨床でも役立つようにする。	2・通	60	2	○			○		○	
○		柔道整復学各論Ⅲ	軟部組織損傷の概要や修復過程のメカニズムを学ぶことで、外傷時に身体の内部でどのような現象が起きているのか理解する。また、顎関節・体幹・脊柱の軟部組織損傷における各疾患の特徴を理解し、正確に評価する方法を修得する。	2・通	60	2	○			○		○	○
○		臨床柔道整復学	3年間の柔道整復学理論の総まとめ及び認定実技審査において理論と実技を学ぶ。また後半では、学生の苦手分野を無くすようし、国家試験合格に向けて力をつけていく。	3・通	330	11	○			○		○	○
○		包帯実技	接骨院やスポーツ現場で必要な技術を身につける。1年次では、身体の各部による包帯法の基礎技術を身につけ、2年次では特に医療現場やスポーツ領域で扱うことの多い症例を中心に、診断・整復・固定までの過程を踏まえた実践的技術に応用する。	1前・2前	1年30 2年30	1年1 2年1				○	○	○	○
○		柔道整復実技Ⅰ	・スポーツ現場で出会う主なスポーツ外傷・障害に関する初歩的知識の修得又救急現場でも実践できる救急法の修得を目指す。 ・下肢に関する解剖学的、運動学的知識を覚えて、下肢の骨折に関する臨床的実技・教科書の知識を理解する。	1・通	120	4				○	○	○	○
○		柔道整復実技Ⅱ	基本包帯法の復習及び実際の現場で観る機会が多いと思われる外傷について診断・整復・固定を学ぶ。柔道整復師としての自覚・モラルの教育・理論のみでなく、将来、臨床の場に出たときにしっかりと対応出来るように確かな技術の修得を目指す。	2・通	150	5				○	○	○	○
○		柔道整復実技Ⅲ	柔道整復実技の応用を学ぶ。また、柔道整復師としての自覚・モラルの教育・理論のみでなく、将来、臨床の場に出たときにしっかりと対応出来るように確かな技術の修得を目指す。	3・通	120	4				○	○	○	○
○		臨床実習	柔道整復師の臨床現場では、幅広い年齢層の患者さんを対象とすることが多い。その為コミュニケーション能力が必要とされる。臨床実習では言葉づかい・挨拶・医療人としての倫理観や立振る舞いを身につけることを目標とする。	2・通	45	1				○	○	○	
○		山岳救命コース(講義)	各講義を通し、登山の基礎、登山の基礎技術、日本の山岳・日本アルプスの自然特性、安全登山と山小屋、登山の医学、遭難事例と遭難救助、山岳救助における安全対策、事故と法的責任、危急時対策について専門的な知識と技術を学び、将来山岳救助の一助になることを目指す。	2・通	30		○			○		○	

